

「大人力」③

思春期SOSが出たときこそ「大人力」が試されます！

子どもたちの幸せを願い、人権を守るためにも、「わが子も近所の子も健やかに…ほうっておかない！」という態度で関わっていきける「大人力」を發揮していくことが求められています。

*思春期SOS③…プチ家出

・わが子だったら…

子どもが帰宅しないことがたびたびあるようでしたら、子どもと心のふれあう機会が不足していなかったか振り返ってみる必要があります。プチ家出をして帰ってきたときは、感情的になつて怒鳴ったりしたくなるものですが、気持ちを落ち着けて、何よりもまず心配していたことを伝えましょう。どこで何をしていたか、どんな気持ちでいたのかなどを聞くのは、その後でも遅くはありません。

「誰かに迷惑をかけているわけじ

ゃないから…」注意しても聞かないから…」と事故や事件に巻き込まれる危険性を軽く見るのは、親の責任の放棄とも言えます。叱るべきことは厳しく叱り、門限などのルールを話し合つて決めることが肝心ですね。親に心配をかけてはいけないという思いは、どの子どもも持っていると思います。それを信じていることを伝えることもとても大切ですね。

・近所の子だったら…

夜、繁華街などでぶらついているのを見かけたら、まずは穏やかな表情で声をかけましょう。いきなりとがめ立てするような表情や声かけでは、「いらぬおせっかいだ！」と反発を招いてしまうこともあります。その場の空気を読んでやれる余裕をもって声をかけていきたいものです。その上で、家人が心配をしないうちに帰宅するようにすすめるといういかもしれません。あまりに無

防備な様子が感じられるような場合は、犯罪や事故に巻き込まれるおそれがあるかもしれないことを伝えてあげることが求められます。保護者には機会を見つけて、そのときの様子を伝えておいてあげるのも親切の一つかもしれません。親が悩んでいるなら、相談相手になるのも近所の大人の役割だと言えます。

*思春期SOS④…

怠学(学校をサボる)

・わが子だったら…

子どもの気持ちを聴くこともしないで、一方的に、学校へ行くことの大切さをくどくどと説いて聞かせるのは、逆効果になることもあります。逆効果になることは、どうしても落ち着きません。

登校刺激を与えるのではなく、まず、「学校へ行くのは嫌だ!」「学校がつまらない!」と言った子どもの訴えにじっくり耳を傾ける必要があります。親が自分のことを理解しようとしてくれていることを確

認ただけでも子どもは満足し、立ち直ることもあります。

大切なのは、普段から子どもの生活に関心をもち、見守っていることです。なるべく朝夕の食事を一緒にとり、学校や友人の話題などを出すなどして、子どもとの会話の機会を多くもつようにしたいものです。しかし、子どもの生活や心の中に深く入り過ぎない間の取り方を心得ておくことも大人力の一つとして求められます。子どもの生活に関心を示し、見守っている親の言動に子どもは親の愛情を感じとるものです。

・近所の子だったら…

学校にいる時間帯に街中で見かけたなら、「早退? 体調が悪いの?」などとやさしく声をかけてあげましょう。その時、どんな言葉を返してくるかがポイントになりそうです。「サボリ」だと感じられても深入りしないで、見かけて声をかけたことだけを保護者に伝えてあげましょう。